



TITLE:

京大広報 No. 187

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 187. 京大広報 1979, 187: 1053-1058

ISSUE DATE:

1979-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209499>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 187

京都大学広報委員会



11月22日から26日にかけての11月祭では、ことしも各キャンパスで多彩な催しが繰りひろげられた。

目 次

次期総長に沢田敏男教授を選出……………	2
11月20日の事態について……………	3
イタリア政府からの受章……………	3
人権問題に関する講演会の開催……………	3
第27回食糧科学研究所講演会……………	3
原子エネルギー研究所公開講演会……………	3

＜随想＞ 思い出すことども	
名誉教授 大隅健一郎……………	4
＜紹介＞ 防災研究所における耐震構造の研究……………	5
白馬山の家開設……………	6
学術講演会の開催……………	6
訃 報……………	6

＜大学の動き＞

次期総長に沢田敏男教授を選出

現総長の任期満了(12月15日)に伴う次期総長候補者の選考が11月18日に行なわれ、その結果農学部の沢田敏男教授(農業施設工学講座担当)が選ばれた。

総長候補者の選考は、選挙資格者による選挙の結果に基づいて評議会で行なわれることになっており、今回の選挙は11月12日から11月17日正午までの郵便による投票と、11月17日、18日の両日にわたる各部局ごとの投票所における投票とによって行なわれ、また開票は本部階上大ホールに設けられた開票所で行なわれた。

なお、選挙資格者は、第1次投票では2,518名、第2次投票以降では1,372名であった。

1 第1次投票

投票所における投票は、11月17日午後1時から2時まで行なわれ、投票者数は、郵便による投票者85名を含め、1,603名であった。

この投票は、2名連記で、投票総数3,206票、うち有効投票2,961票、無効投票245票であり、次の15名が第1次総長候補者に選ばれた。

井 上 健	早 石 修
加 藤 幹 太	林 忠 四 郎
片 岡 昇	林 良 平
河 野 健 二	福 井 謙 一
坂 本 慶 一	溝 畑 茂
沢 田 敏 男	
菅 原 努	
高 村 仁 一	(五十音順)
西 島 安 則	
西 原 宏	

2 第2次投票

第2次投票は、11月18日午前9時から10時まで、単記で、15名の第1次総長候補者について行なわれ、投票総数906票、うち有効投票902票、無効投票4票であり、次の3名が第2次総長候補者に選ばれた。

沢 田 敏 男
高 村 仁 一

河 野 健 二

(得票順)

3 第3次投票

第3次投票は、同日正午から午後1時まで、単記で、3名の第2次総長候補者について行なわれ、投票総数922票、うち有効投票909票、無効投票13票であったが、開票の結果、いずれの候補者の得票数も有効投票数の過半数に達しなかったため、得票多数の次の2名について決選投票が行なわれることとなった。

沢 田 敏 男

高 村 仁 一

(得票順)

4 決選投票

決選投票は、同日午後2時30分から3時30分まで、単記で、2名の候補者について行なわれた。投票総数877票、うち有効投票865票、無効投票12票で、候補者別の得票数は次のとおりであった。

沢 田 敏 男 510 票

高 村 仁 一 355 票

この結果、沢田敏男教授(農学部)が第3次総長候補者に選ばれた。

5 選 考

評議会は、このあと同日午後4時30分から開催され、選挙の結果に基づき、次期総長候補者として沢田敏男教授を選考し、同氏はこれを受諾した。

沢田敏男教授の略歴

本籍地 京都府 大正8年5月4日生

昭和17年9月 京都帝国大学農学部卒業

昭和21年1月 京都帝国大学農学部研究嘱託

昭和21年10月 京都帝国大学大学院(昭和23年9月まで)

昭和23年10月 岡山農業専門学校講師

昭和24年5月 岡山農業専門学校教授

昭和25年10月 京都大学農学部助教授

昭和34年12月 京都大学農学部教授

昭和43年11月 京都大学評議員(昭和44年12月まで)

昭和46年12月 京都大学農学部長(昭和48年12月まで)

昭和53年4月 京都大学学生部長(昭和54年8月まで)

11月20日の事態について

11月20日（火）、ヘルメット着用を含む吉田・熊野寮関係約100名の学生集団が、正午すぎから教養部構内において集会を開き、その後構内示威行進に移り総長室前の廊下に進入し、総長室の扉の一部を破壊したのち、更に学生部長室前の廊下に進入し、学生課長室の扉の一部を破壊した。

この破壊行為に対して、警察への被害の届出が行なわれ、11月21日（水）警察の現場検証が総長室ならびに学生課長室の扉、学生部長室前の廊下および階段の一部について行なわれた。検証は関係者立会の上、同日午前8時35分頃から始まり同9時15分頃終了した。

イタリア政府からの受章

本学文学部清水純一教授（文学部長）と経済研究所尾上久雄教授に対して、イタリア政府から、イタリア共和国功労章—カバリエーレ級—（Cavaliere dell'Ordine al Merito della Repubblica

Italiana）が授与され、その授与式が11月28日午後2時から、日本イタリア京都館で行なわれた。

この功労章は、イタリアとの文化交流を通じ、両国の親善に功績のあった外国人に授与される勲章である。

人権問題に関する講演会の開催

「人権に関する世界の憲法」ともいわれる国際人権規約が、本年5月8日の衆議院本会議で、更に6月6日の参議院本会議でそれぞれ可決、批准され、9月21日発効した。

これを機に本学では、教職員・学生を対象として、人権問題についての一層の関心を深め、基本的な人権尊重の意識高揚を願って「人権問題に関する講演会」を下記のとおり開催することとした。

記

講師 太寿堂 鼎（本学法学部教授）

演題 国際人権規約批准の意義

日時 昭和54年12月8日（土）

午後1時～2時30分

場所 法経七番教室

<部局の動き>

第27回食糧科学研究所講演会

食糧科学研究所では恒例の学術講演会を11月16日（金）午後2時から同5時まで、宇治地区研究所総合館5階大会議室において開催した。学界、業界から多数来聴され、盛会であった。

演題、講師は、次のとおりである。

1. スーパーオキシジスムターゼ 浅田浩二
2. 食品の貯蔵に関連するプロテアーゼ類について 土井悦四郎
3. 大豆長期貯蔵に関する食品生化学的食糧安全学的研究 鬼頭 誠
4. 油脂の光増感酸化とその防止 松下雪郎
（食糧科学研究所）

原子エネルギー研究所公開講演会

原子エネルギー研究所では、その創立記念日に

毎年、公開講演会を開催しているが、本年も11月28日、午前10時から午後4時まで、原子エネルギー研究所5階会議室において、公開講演会を開催した。

演題、講師は、次のとおりである。

溶融体の輸送物性測定 谷垣昌敬

液相多成分拡散現象の観測について 江口 彌

ディスクタイプMHD発電機における電磁場と流体との相互作用 石川本雄

非沸騰状態からの圧力急減に伴う過渡沸騰 塩津正博

炉材料の高温マッススペクトロメトリー 浅野 満

（原子エネルギー研究所）

<紹 介>

防災研究所における耐震構造の研究

昭和54年4月、防災研究所の改組拡充によって塑性構造耐震部門と脆性構造耐震部門が設置された。防災研究所が行なっている主要な研究の一つに、地震動による災害を防禦し、軽減するための研究があるが、上記の新しい部門はその一翼を担っている。

地震動による災害を軽減するには、地震を予知することが有効であるが、予知と同時に建築物や橋梁などを耐震的にすることもまた重要である。防災研究所では、次に述べる4部門が相互に協力しつつ地震動災害を防禦するための研究を行ってきた。

震源地からどのように地震波が伝わってくるか、地震動の強さや性質が地域によってどのように変わるかなど、震源地から構造物が設置されている地区までの地震波の伝播に関する研究は地震動部門で行なっている。

地表直下の基盤に到達した地震波は振幅を拡大しながら地表面に向かって上昇するが、地盤の軟弱の程度によって地震動の振幅が拡大する度合、地震時における土の性質、地中に埋込まれた土木構造物の耐震設計法などについては、耐震基礎部門

で研究を行なっている。

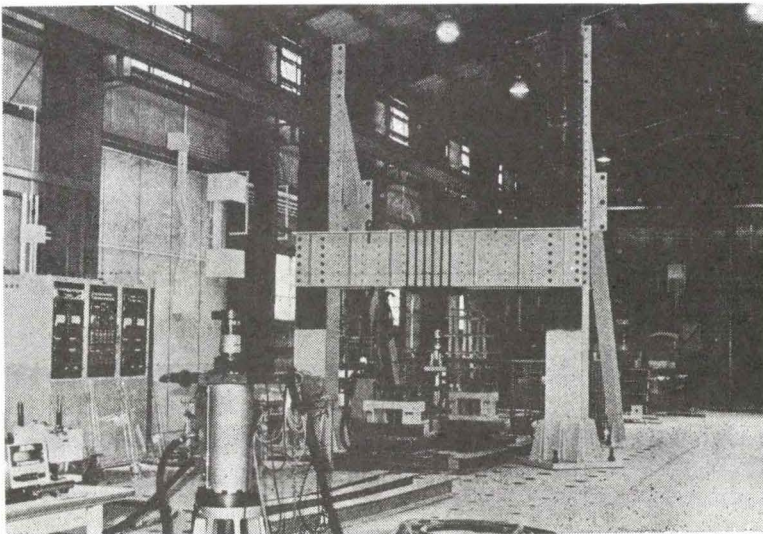
基盤から地表に伝わってきた地震波は、建物の基礎から構造物に伝わり、建築物を振動させるが、地盤とその上に建てられている建築物が相互にどのように影響し合って振動するか、基礎地盤の性質が構造物の振動にどのように影響するかなどについては地盤震害部門で研究を行なっている。

基礎から建築物に与えられた動的な力によって建築物が振動する場合に、建築物が示す抵抗力や、耐震的な構造物の設計法などについては、耐震構造部門で研究を行なってきたが、建築物を構成する材料も、鋼材、コンクリート、煉瓦、木材など幅が広く、同一の研究部門であらゆる種類の構造物に関する研究を行なうことが困難であるので、今年から、同部門は塑性構造耐震部門となり、さらに脆性構造耐震部門が新設された。

塑性構造耐震部門では、鋼材のように粘り強い材料を主に用いた構造、すなわち鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、木構造などの耐震性や耐震性能向上などの研究を行なう。脆性構造耐震部門では、コンクリートや煉瓦など、本来脆い材料を鉄筋などと組合わせて粘り強い耐震性の大きいものにする研究を行なう。主な対象は鉄筋コンクリート造、補強コンクリートブロック造、補強煉瓦造

などである。これらの2部門では、コンクリート、鋼材など材料の高速加力下における物理的性質の研究、柱、はり、壁など構造物の構成要素や、構造物全体としての地震力下での変形性状の研究、人為地震発生装置による構造物模型の振動実験、コンピュータによる構造物の動的応答の研究、地震による建築物の被害調査などを行ない、これらの研究を総合して合理的な耐震設計法を確立することを目指している。

(防災研究所)



耐震構造実験室および動的構造物試験装置

はくばやま いえ
白馬山の家の開設

毎年、利用者から好評を受けている白馬山の家を、今冬は下記のとおり開設しますので、本学の学生および教職員が利用される場合は、下記を参照のうえ、申し込んでください。

この山の家は、中部山岳国立公園白馬山麓の^{つが}梅池高原にあり、四方を北アルプスの峰々に囲まれ、冬季には積雪量も多く、雪質の良さとともにスキーには絶好の条件を備えています。

建物は、山小屋風の木造2階建地下1階で、1階に食堂兼談話室、2階は寝室（ベッドで42名収容）、地下に浴室、乾燥室等があります。

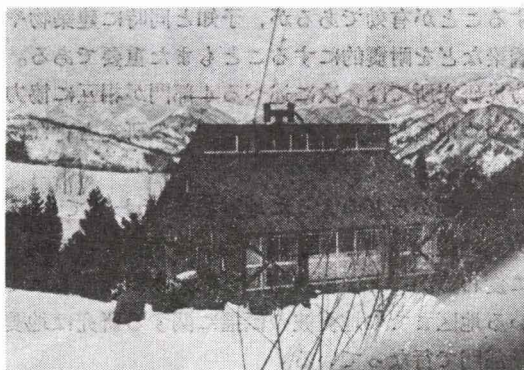
記

1. 名 称 京都大学白馬山の家
2. 所在地 長野県北安曇郡小谷村大字千国字柳^{ちくにやなぎ}
久保乙869の2 電話026183-2405

(交通機関)

国鉄大糸線「白馬大池」下車、松本電鉄バス
「親の原」下車、徒歩約20分

3. 開設期間 12月20日(木)～1月10日(木)なら
びに2月20日(水)～4月10日(木)
4. 所要経費 1人1泊、使用料80円、暖房料
50円、ほかに食費等実費程度
5. 申し込み 詳細は、本学体育会事務室（西
部構内総合体育館内、電話学内
2574）に照会してください。
6. 備 考 山の家のある梅池高原には、初心
者向きから上級者向きまで各種の
ゲレンデがあります。



(学生部)

学術講演会の開催

本学では、学術講演会を下記のとおり開催いたします。本学教職員、学生の来聴を歓迎します。

記

講師 桑原武夫（京都大学名誉教授）

(略歴)

1904年福井県生まれ。1928年京都帝国大学文学部卒業。1959年～1963年京都大学人文科学研究所長。1966年フランス共和国、国家勲功騎士章を受章。本年11月に文化功労者とし

て顕彰される。

演題 世界における日本文化

日時 昭和54年12月10日（月）午後3時

場所 京大会館101号室

(学生部)

訃 報

土橋 静枝（文学部用務員）

11月13日逝去、58歳。昭和51年から文学部作業員として勤務。

穂積 文雄（本学名誉教授・経済学博士）

11月26日逝去、77歳。本学経済学部卒。昭和20年本学経済学部教授就任、同41年停年退官。その間評議員（昭和21年～23年）、経済学部長（昭和27年～29年）を歴任。昭和47年勲二等瑞宝章受章。専門は社会・経済思想史。